TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 8 月 4 日

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子

検証テーマ： 北朝鮮問題、東京医大、天皇皇后両陛下

報道トピック一覧

・全国各地で今日も猛暑日
・北朝鮮問題
・東京医大
・【現場から、西日本豪雨災害】
・天皇皇后両陛下が利尻島を訪問
・警視庁が事件捜査体験の採用イベント
・千葉県で福祉車両など 40 台以上がパンク
・【特集】西日本豪雨、問われるダム放流
・【特集】AI と戦争証言
・スポーツ報道

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・オープニング：結論→やや不十分

金平キャスターが「東京医科大学が入試の際に女子受験者を一律に減点していたことがわかりました。大学関係者は女性は将来離職率が高いなどと話していたとのことですが、呆れてものも言えません。日本が先進国だと思っていた人はこの際考え直したほうがいいかもしれません。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 18 秒だった。そもそも問題となっているテーマにおいてオープニングで特定の結論からコメントを行うことは視聴者に予断を与えるため望ましくないと考えられるが、今回も大学関係者の「女性は将来離職率が高い」ということに対して検討もなしに「呆れてものも言えません」と断ずるのはいささか一方的であり放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」という点で問題がないとは言い切れないだろう。

・北朝鮮問題：結論→特に問題なし

ASEAN 関連の外相会議に出席するためシンガポールを訪れている河野外務大臣は昨日夜、北朝鮮のリ・ヨンホ外相と立ち話をしたこと、今日は河野外務大臣が昼過ぎからアメリカのポンペオ国務長官と会談し北朝鮮の非核化に向けて緊密に連携していくことで一致したことが報じられた。

また、国連安全保障理事会の北朝鮮制裁委員会の専門家パネルが制裁の履行状況を調査した今年の中間報告書をまとめたこと、AFP 通信などによると報告書は北朝鮮が今年に入ってアメリカとの対話姿勢に転じてからも核ミサイル開発を継続していること、いわゆる瀬取りとよばれる洋上での貨物の積替えによって大量の石油精製品を違法に取得していること、シリア人を仲介人として中東のイエメンやリビアに武器を輸出していることを報告しているということが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 159 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・東京医科大学：結論→特に問題なし

東京医大は 2013 年文部科学書の女性研究者研究活動支援事業に選ばれ女性医師や研究者の出産育児と仕事の両立を支援するため 3 年間で 8000 万円を超える補助金を受けたこと、当時の東京医大はそれまでの 10 年間で医学科の女子学生が 50 人増え学生全体に占める割合も 26.9%から 32.4%に増加していたこと、一方で同じ時期に女子受験生の得点を一律に減点していたことが報じられるとともに、大学の内部調査の結果は来週にもまとまる見通しであることが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 63 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・天皇皇后両陛下：結論→特に問題なし

北海道を訪問中の天皇皇后両陛下が利尻島を初めて訪問され、両陛下は利尻島でエゾバフンウニを育てている施設を訪問した後に日本百名山の一つ雄大な利尻富士を眺められたこと、両陛下は今回の利尻島訪問で 55 の島を巡られたことになり象徴天皇として大切な務めと位置づけてきた島々への度は今回が最後になる見通しであることが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 53 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・【特集】AI と戦争証言：結論→特に問題なし

AI,人口知能を使って、先の大戦の生存者とそんな技術が今アメリカで注目されていて、生存者たちが高齢化する中で戦争証言をどう保存し後世に伝えていくのかの最前線を取材した特集が放送された。

特集の VTR では、最新のテクノロジーを使った戦争証言の保存や AI（人口知能）を通して戦争の生存者と直接対話ができるシステムなどに取り組んでいる南カリフォルニア大学ショア財団への取材や、この取組に協力しているホロコースト被害者へのインタビューの映像が取り上げられていた。また、AI をつかった対話を円滑に行うためには最低でも 1000 の質問が必要であることや、録画されたインタビューの内容を AI に認識させていくのに自然言語処理のソフトウェアが用いられていることなども VTR では触れられている。

また VTR 中では AI を通して戦争の証言者たちと対話する新たな技術について広島平和記念資料館の志賀館長や被爆者へのインタビューも取り上げられていた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「あの一はたから見るとただバーチャル映像と対話をしているように見えたかもしれないですけど。実際に映像と向きあってみますと、人と対面しているような感覚に陥ります。で、対話を通して感情が揺さぶられるような瞬間もありますのでね。そうすると単に情報を得るというだけではなく、感情が動かされるので対話が記憶に残る体験になっていくなと感じました。そういった技術です。」

日下部「ここまで来たかという感じもしますけども、限界みたいなものもあるんでしょうね。」

膳場「あの一確かに限界はあると思います。AI ていうのは質問者の意図をくみ取るっていうことができませんので、答えられないような質問をするとね、答えられませんといわれてしまいますし、例えばこちらが感想を伝える本当に大変でしたねっていうようなことを言うと、それも質問ではないのでありがとうございます。とか別の質問をしてください、という風に返されてしまうんです。ただ、それは AI が勝手に証言を、証言内容を編集したり、答えを作り出したりしないっということの裏返しでもあるんですね。」

金平「ぼくは VTR を見ててね、ホロコースト生存者たちの自分たちの記録を残そうっていうその意思の強烈さにね、私も衝撃を受けたんですけどね。」

膳場「んーそういう部分もあるんでしょうね。ただこの技術っていうのはホロコーストに限らず様々な戦争証言の記録に応用していくことができるなーというように感じました。あのお話を伺ったホロコースト生存者のお二人はね未来の子供に伝えたいとお二人ともがおっしゃってたんです。で時間を超えていつまでも本人と対話ができるということにこの技術のすごさがあります。2 月にあれだけ力強い言葉を紡いでいたアーロンさんが亡くなったと聞いて、改めて、先の大戦の記録を伝えていくために残された時間ってのは少ないなーと感じました。」 　この特集に当てられた時間は 1602 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。
最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨 　特になし
検証者所感 ・【特集】AI と戦争証言 　特集が AI を利用しての戦争証言の保存であったから、しかたのない面もあるが、全体として人間の証言というものを過信しているような印象はあった。人間の記憶というのはときに勘違いや忘却ということもあり、収集した証言同士で矛盾が生じたり、あるいはそうした証言への反証となる史料が発見されたりした場合にどう折り合いをつけていくのだろうか、という点は気になった。